

ジャパンハウスの活用事例



在サンパウロ日本国総領事館

2022年3月3日

ジャパンハウスについて

日本の文化外交広報拠点として設立

所在地：ブラジル：サンパウロ、米国：ロサンゼルス、英国：ロンドン

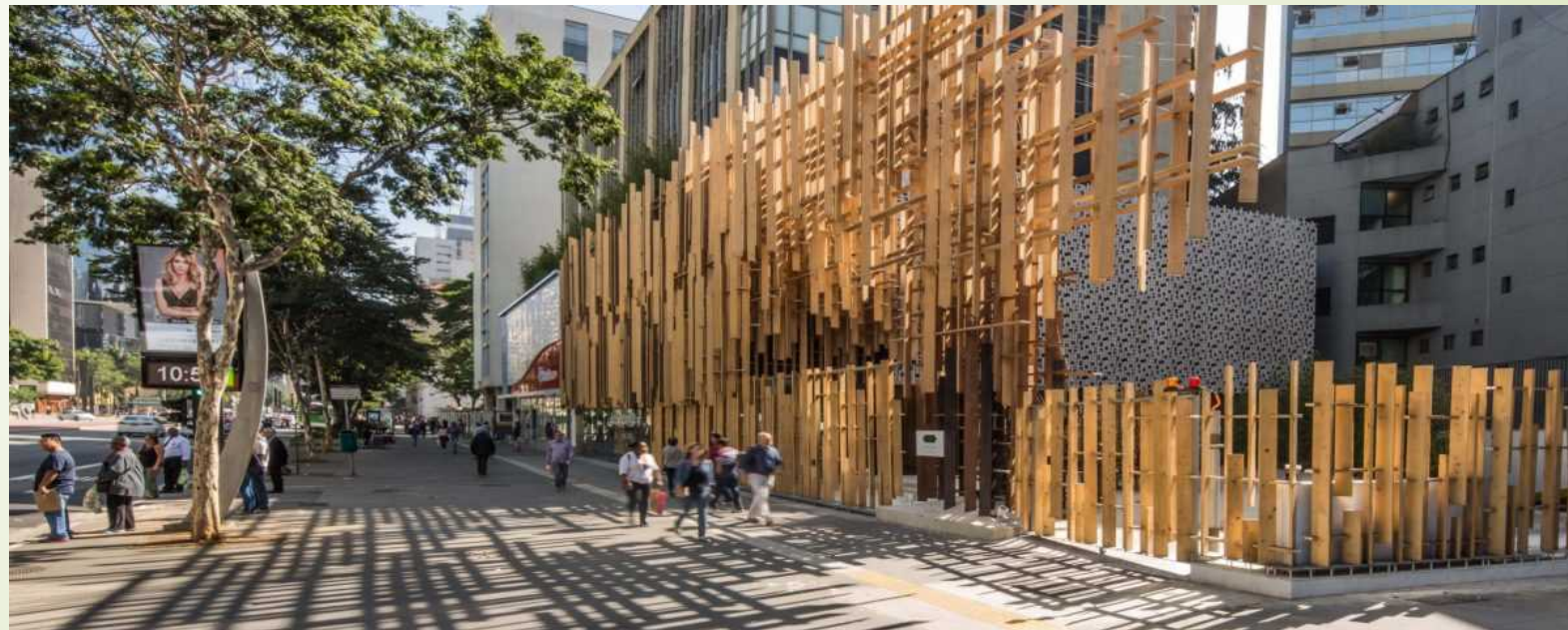
開館日：2017年（サンパウロ）

入場料：無料

2020年2月に累計来場者数 200万人を突破

1日平均入場者数：平日2000人、週末3000人ほど

サンパウロ市の目抜き通りパウリスタ大通りに面する



ジャパンハウスの設備

JAPAN HOUSE SÃO PAULO 施設構成

レストラン



マルチメディア
発信スペース



Café Mirai

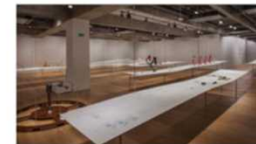


FUROSHIKI/真



3F

多目的ホール 2



セミナー室



多目的ホール 1



ソトドマ



ジャパンハウスの活用事例①

「和牛と泡盛のタベ」

2018年8月21日

- 宮腰総理大臣補佐官（当時）が訪伯時に、鹿児島県産和牛と泡盛のプロモーションイベントを実施
- 当地メディア、レストラン関係者、食品輸出入業者、インフルエンサー等約100名が参加。
- JHSP内にレストランを構える「藍染」の白石テルマが和牛を使った料理を振る舞った。
- 日本から出張した泡盛マイスターと当地のバーテンダーがコラボし、泡盛を使用してカクテルを振る舞った。
- イベントの様子は当地のTVメディアにも取り上げられ、実際に鹿児島県産牛肉の輸出や、泡盛の輸出に繋がった



ジャパンハウスの活用事例②

「宮崎のタベ」

2019年8月26日

- 河野宮崎県知事が訪伯時に、宮崎県産和牛、焼酎及び郷土料理のプロモーションイベントを実施
- 当地メディア、レストラン関係者、食品輸出入業者、インフルエンサー等約60名が参加。
- 同じ時期に訪伯していた吉川農林水産大臣（当時）もスピーチを実施。
- イベントの様子は当地メディアにも取り上げられ、参加した当地の食肉取扱業者との商談に繋がった。



ジャパンハウスの活用事例③

キッコーマン新商品発表イベント

2021年11月1日

- キッコーマン・ブラジルが中南米では初の自社工場による醤油の製造・販売を記念したイベントを実施。
- 日本食普及の親善大使の白石テルマシェフとGuga Rochaシェフ（ブラジル料理研究家）がコラボレーションし、キッコーマン醤油に合う料理を作り、約60名の参加者に提供された。
- イベントの様子は、当地メディアや邦字紙でも報じられた。
- 今後は日本の伝統的な製法によるキッコーマン醤油が現地でより気軽に購入できるようになり、消費者にとって、選択の幅が増えるとともに、市場の活性化が期待される。



ジャパンハウス活用のメリット

- ジャパンハウスのメディアの露出度（累計メディア露出回数 1 億回以上）
- 自社の商品や地元の名産品をブラジル社会に向けて発信可能
 - 日系社会のみならずのブラジル社会に広く発信可能
- ブラジルのレストラン関係者に直接繋がることが可能
 - イベントで当地のレストラン関係者を招待することにより、商品を直接紹介することが可能
- 中南米オンライン発信（スペイン語、ポルトガル語）
 - ブラジルを拠点として、中南米各国への発信が可能

ジャパンハウスの利用に関するお問い合わせ先

ジャパンハウス事務局に御相談下さい。

ジャパン・ハウス サンパウロ

サンパウロ市パウリスタ大通り52番地ベラ・ビスタ地区

サンパウロ州・サンパウロ市

メール: contato@japanhousesp.com.br

電話番号: +55 11 3090-8900

(日本語、英語、ポルトガル語で対応可能)